

目が届く近さで、互いの生活に配慮できる隣居プラン 念願をすべて満足させてくれたBeハウスの家づくり



南面に広い庭とアプローチがある伊藤邸。将来は季節の花々で彩られる予定です

気兼ねなく暮らせる
スニープのさめない距離

「両親との隣居を選択された。つづは市の伊藤さんご夫妻。」「いままでも休日には農作業の手伝いに行っていました。両親とも高齢になってきたので近い方がいいと思ひ、下の子が小学校に上がるのをきうかけに引越しました」

「両親の家は昔ながらの農家。敷地内には平屋建ての母屋や、大きな納屋もあり、それらと庭をはさむ格好で新宅が建っています」

「母屋はみんなで住むには手狭ですが、昔造りで丈夫です。父が最初に建てた家なので取り壊すのもつたいない。そこで庭と畑の一部を利用して、自分たちで新しく建てることにしました」

隣居はいわゆる「スニープのさめない距離」。親子でも生活スタイルの違いなどがあるため、互いに気兼ねなく暮らすには良い方法といえます。

「私たちが忙しいとき、子供たちは両親のところで飯を食べさせてもらっています。いつでも顔を合わせられて様子が分かるよう、キッチン窓は大きくとり、勝手口も母屋との行き来がしやすい場所に取り付けました」

カビとの戦いから解放 親子で入れる広い浴室

伊藤さんご夫妻は、いままでは市の中心部にある公務員宿舎に住んでいました。「古い3階建ての鉄筋コンクリート建築でしたが、雨漏りが壁と壁紙の間に染み込み、いくら壁紙を張り替えても、中からカビが生えてきてしまいます」

新居は約20帖のリビングを中心に、たうぶりとした吹き抜けがある広々とした造り。太陽光発電とエコキュートでオール電化を実現し、セントラル空調システムも取り入れました。

「中でもリビングの吹き抜けとリビング階段は最優先事項。すると個別の冷暖房では費用



(上)空間を贅沢に使った吹き抜け。主寝室の窓から家の中全体が見渡せます
(右上)子供部屋のロフト。全館空調のため隅々まで快適です
(右中)リビングの一角にある畳コーナー。収納も大きく、雑飾りや兜飾りを出すときに活躍します
(右下)キッチンの奥には広い食器棚と食品庫も。「IHは初めて使うので楽しみ」と奥様

がかかり過ぎるのでセントラル空調も必要だろうと思ひ、いろいろと検討させてもらいました。Beハウスの提案によりご主人が選んだシステムは、山武の「きくばり」。電子式エアクリナーを搭載し、ハウスダストや花粉はもちろん0.01ミクロンまでの細かいゴミや病原体も除去するという優れたもの。その他の基本性能でもトップクラスだそうです。

「お風呂も、以前は子供たちと一緒に誰かが洗い場へ出て、代わりのこと。」「今度の家では1・25坪タイプの浴室に窓も付いて、いまままでの倍以上の広さ。洗面所の前には大きな収納もあるので、着替えの出し入れにとても便利です」

最初に、造りたい家のプランをお互い2人で考え、手描きの間取図にしてあちこちのメーカーに相談したところ、「その中でBeハウスのスタッフが私たちの話を最もよく聞き、意見を忠実に取り入れてくれました。また価格も一番安く、それでいて設備や部材に良いものを選べたことも大きかったですね。こうして伊藤さんご夫妻は、長年のあこがれだった快適生活を手にされました。」

(取材/池田充雄)



(左)2階の子供部屋にも目が届くリビング。安全性に配慮し、壁の角は全て丸められています
(右)ドアや造作材も上質なものを使用しました。天井はパインの無垢材です



Beハウス

—デザイナーとつくる家—

<http://www.behouse.jp/>

■建物面積 98.35㎡(29.75坪)